

表題

地域で学び地域で育ち地域に貢献する総合的な臨床能力を有した医師の育成

特色ある取組

取材対応者



（地域医療人材育成講座教授 片岡仁美）



（地域医療人材育成講座教授 佐藤勝）



医学部医学科5年 萩原万優さん

本学では「地域で学び地域で育ち地域に貢献する総合的な臨床能力を有した医師の育成」を目指して40か所以上の地域医療の現場と連携した教育を行っています。1年次には早期地域医療体験実習、2-3年次には地域医療体験実習（必修）、5-6年次には選択制臨床実習として、それぞれ1～2週間、現場でじっくりと地域医療を学びます（図1-1,2）。地域の実習施設には研修医の地域医療研修、総合診療・救急などの専門研修プログラムにも協力いただいております、地域の現場で学生～専攻医による屋根瓦式教育が展開されます（らせん型カリキュラム：図2）。さらに、地域の現場でも知識をアップデートできるように、との要望に応えるかたちで双方向性遠隔講義システムを導入しています（14拠点を繋いだ感染症講義：図2）。加えて、地域の現場でのより高度な多職種連携を可能とするための出張シミュレーション研修も定期開催しています。また、特に地域枠学生には地域医療支援センター及び救命救急・災害医学講座のご協力でメディカルラリー形式の学習を行っています（図3）。地域医療の現場で出会うであろう状況を疑似的に経験し、どう考え、どう判断するかを実践的に学んでいます。その他、毎夏に岡山県地域医療支援センターと当講座の共催で地域を担う医師を地域で育てるワークショップを開催し、地域の病院長、大学・研修病院の指導医、地域の首長等と学生、地域枠卒業生が一堂に集まり、望ましい医師育成の在り方、地域貢献の在り方についてフラットに語り合い、地域全体で若手医師を育てる基盤を構築しています（図4）。

学生の声

早期地域医療体験実習にて、医療が行政や教育といった様々な機関と連携して地域社会を支えている現場に触れ、自身の目標を具体的に描く良い機会となりました。その中で医療政策に興味を持ち、勉強会にも参加しました。毎年夏のセミナーでは、メディカルラリーや学生ワークショップを通して、学年の垣根を越えて様々な意見を出し合い、医療を行うということについて深く考えることができます。今年は、去年の西日本豪雨から災害医療の重要性を痛感し、災害医療のワークショップを主催しました。勉強を進めるうちに、地域医療を行う上で救急・災害医療の知識を持つ必要があると感じ、救急医学会にて学会発表を行ったり、DMAS（日本災害医学会学生部会）に入り他大学の学生とともに勉強したりしております（図5）。“地域で働く”ということを教わりながら、その中で興味のある分野を見つけ、学ぶ支援までしていただき、地域医療人材育成講座や救命救急・災害医学講座の先生方には感謝の思いで一杯です。

上記取組による成果・評価 など

上記の取り組みを中心とした内容で平成25年度文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業「地域で育ち地域を科学する総合診療医の育成」に採択され、高い臨床能力と研究力を両立させる人材の育成に取り組み、A評価（中間評価）を受け、同取り組みの外部評価でも5.3点（6点満点）の高い評価を得ました。また、地域枠卒業生は現在8人が県内の医師不足地域で勤務を行っており、優れた臨床能力を有する総合医として地域の医療機関、住民より高い評価を頂いております。また、毎年岡山県保健福祉部、住民代表者、地域医療機関代表者などによる地域医療教育に関する外部評価を行っており、そこでも高い評価を得ています。



参考URL

- ・地域医療人材育成講座HP  
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/cbme/>
- ・地域を支え地域を科学する総合診療医の育成プロジェクトHP  
<http://gim.med.okayama-u.ac.jp/>